

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年2月7日
【四半期会計期間】	第98期第3四半期（自平成29年10月1日至平成29年12月31日）
【会社名】	東洋建設株式会社
【英訳名】	TOYO CONSTRUCTION CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 武澤 恭司
【本店の所在の場所】	大阪府中央区高麗橋四丁目1番1号
【電話番号】	06(6209)8711
【事務連絡者氏名】	大阪本店 総務部長 沼澤 和典
【最寄りの連絡場所】	東京都江東区青海二丁目4番24号
【電話番号】	03(6361)5450
【事務連絡者氏名】	経営管理本部 総務部長 篠崎 友佳
【縦覧に供する場所】	東洋建設株式会社 本社 （東京都江東区青海二丁目4番24号） 東洋建設株式会社 横浜支店 （横浜市中区山下町25番地15） 東洋建設株式会社 名古屋支店 （名古屋市中区錦二丁目12番14号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第97期 第3四半期連結 累計期間	第98期 第3四半期連結 累計期間	第97期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (百万円)	111,352	122,165	152,587
経常利益 (百万円)	4,948	7,259	6,326
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	3,001	4,570	4,303
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	3,446	5,340	4,357
純資産額 (百万円)	41,233	46,324	42,116
総資産額 (百万円)	128,744	143,436	138,021
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	31.86	48.62	45.71
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	31.3	31.5	29.9

回次	第97期 第3四半期連結 会計期間	第98期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	14.35	14.62

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定、または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績の状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当社グループでは今年度を初年度とする中期経営計画の目標達成に向けて、土木、建築、海外からなる基幹3事業の安定した収益確保による強靱な経営基盤の構築及び時代の変化への積極果敢な挑戦「Challenge to a new Stage」に努めております。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、良好な受注環境と豊富な手持工事から前年同四半期比9.7%増の1,221億65百万円となりました。

利益面においても主に国内土木工事の順調な進捗等により、営業利益は前年同四半期比34.6%増の73億47百万円、経常利益は前年同四半期比46.7%増の72億59百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期比52.3%増の45億70百万円となり、第3四半期連結累計期間の業績としては、売上高、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益の各項目において過去最高を更新いたしました。

（国内土木事業）

港湾、空港など国際競争力強化のためのインフラ整備工事や、民間工事の受注及び施工に注力したほか、都市部のインフラメンテナンス関連工事にも取り組んでまいりました。また地盤改良船はじめ、各種主要作業船が各地で順調に稼働いたしました。当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同四半期比17.1%増の714億98百万円、セグメント利益は前年同四半期比121.4%増の53億17百万円となりました。

（国内建築事業）

中期経営計画において重点施策に掲げた工場、物流センター、医療福祉、住宅の4分野の営業力強化に加え、事務所、ホテル、環境施設等の大型案件に対する積極的な対応を進めてまいりました。また注力分野であるリニューアル関連事業も堅調な民間設備投資を背景に着実な成果を上げております。当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同四半期比3.7%減の334億29百万円、セグメント利益は前年同四半期比26.8%減の14億79百万円となりました。

（海外建設事業）

ベトナムの航路浚渫工事、ミャンマーの港湾施設工事、フィリピンの河川改修工事及び現地法人CCT CONSTRUCTORS CORPORATION（連結子会社）による大型工場建築工事などが順調に推移したものの、一部不採算工事の影響もありセグメント利益は前年同四半期に比べ減少いたしました。当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同四半期比9.5%増の163億82百万円、セグメント利益は前年同四半期比54.7%減の3億50百万円となりました。

（不動産事業）

当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同四半期比7.9%増の5億56百万円、セグメント利益は前年同四半期比27.4%減の1億67百万円となりました。

（その他事業）

損害保険代理店業、物品の販売・リース事業などであり、当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同四半期比148.2%増の2億97百万円、セグメント利益は前年同四半期比6.1%増の33百万円となりました。

（2）経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

（3）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

（4）研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費は、3億40百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動について重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種 類	発行可能株式総数(株)
普通株式	320,000,000
計	320,000,000

【発行済株式】

種 類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年2月7日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	94,371,183	94,371,183	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	94,371,183	94,371,183	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年10月1日～ 平成29年12月31日	-	94,371	-	14,049	-	5,840

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため記載することができないことから、直前の基準日（平成29年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 41,700	-	単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 94,280,800	942,808	同上
単元未満株式	普通株式 48,683	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	94,371,183	-	-
総株主の議決権	-	942,808	-

(注)「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式1,400株(議決権の数14個)及び役員報酬B I P (Board Incentive Plan) 信託の所有する当社株式327,947株(議決権の数3,279個)が含まれております。

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
自己保有株式 東洋建設株	大阪市中央区高麗橋 四丁目1番1号	41,700	-	41,700	0.04
計		41,700	-	41,700	0.04

(注)株式名簿上は当社名義となっているが実質的に所有していない株式1,400株(議決権の数14個)及び役員報酬B I P 信託が所有する株式327,947株(議決権の数3,279個)は上記自己保有株式には含まれておりません。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	21,946	24,336
受取手形・完成工事未収入金等	52,409	4 50,691
未成工事支出金	10,958	15,964
販売用不動産	156	134
立替金	5,267	6,079
その他	7,672	6,966
貸倒引当金	17	13
流動資産合計	98,392	104,159
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	13,176	12,839
機械、運搬具及び工具器具備品	25,238	24,907
土地	22,591	22,457
建設仮勘定	1	500
減価償却累計額	27,612	27,970
有形固定資産合計	33,395	32,734
無形固定資産		
	230	216
投資その他の資産		
投資有価証券	2,999	3,353
その他	4,166	3,729
貸倒引当金	1,163	758
投資その他の資産合計	6,002	6,325
固定資産合計	39,628	39,276
資産合計	138,021	143,436

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	41,718	53,183
短期借入金	11,003	6,179
未成工事受入金	11,909	9,999
未払法人税等	1,228	1,086
預り金	5,421	2,816
賞与引当金	905	371
その他の引当金	931	893
その他	8,191	9,163
流動負債合計	81,308	83,693
固定負債		
長期借入金	5,311	4,118
引当金	49	79
退職給付に係る負債	6,452	6,326
その他	2,784	2,893
固定負債合計	14,597	13,417
負債合計	95,905	97,111
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,049	14,049
資本剰余金	6,052	6,052
利益剰余金	19,443	22,852
自己株式	159	157
株主資本合計	39,385	42,796
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	567	818
繰延ヘッジ損益	1	-
土地再評価差額金	2,702	2,732
為替換算調整勘定	10	20
退職給付に係る調整累計額	1,352	1,123
その他の包括利益累計額合計	1,906	2,406
非支配株主持分	823	1,121
純資産合計	42,116	46,324
負債純資産合計	138,021	143,436

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高		
完成工事高	110,632	121,311
兼業事業売上高	719	853
売上高合計	111,352	122,165
売上原価		
完成工事原価	99,470	108,145
兼業事業売上原価	310	525
売上原価合計	99,781	108,670
売上総利益		
完成工事総利益	11,161	13,165
兼業事業総利益	409	328
売上総利益合計	11,570	13,494
販売費及び一般管理費	6,113	6,146
営業利益	5,457	7,347
営業外収益		
受取利息	40	9
受取配当金	28	29
貸倒引当金戻入額	-	325
その他	26	45
営業外収益合計	95	409
営業外費用		
支払利息	216	197
為替差損	200	-
コミットメントフィー	82	195
その他	105	104
営業外費用合計	605	497
経常利益	4,948	7,259
特別利益		
固定資産売却益	15	70
投資有価証券売却益	-	14
負ののれん発生益	46	-
その他	7	-
特別利益合計	69	84
特別損失		
固定資産売却損	3	3
固定資産除却損	125	21
ゴルフ会員権評価損	4	-
減損損失	-	43
特別損失合計	132	68
税金等調整前四半期純利益	4,886	7,275
法人税、住民税及び事業税	1,714	2,131
法人税等調整額	2	259
法人税等合計	1,712	2,391
四半期純利益	3,173	4,884
非支配株主に帰属する四半期純利益	172	313
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,001	4,570

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	3,173	4,884
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	144	252
繰延ヘッジ損益	2	1
為替換算調整勘定	77	25
退職給付に係る調整額	203	228
その他の包括利益合計	272	456
四半期包括利益	3,446	5,340
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,313	5,040
非支配株主に係る四半期包括利益	132	300

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
ホテル朱鷺メッセ(株)	50百万円	46百万円

2. 受取手形割引高及び裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
受取手形裏書譲渡高	2百万円	28百万円

3. コミットメントライン

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため主要取引金融機関8社等とコミットメントライン(特定融資枠)契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高等は次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
コミットメントライン契約の総額	15,000百万円	15,000百万円
借入実行残高	4,000	-
差引額	11,000	15,000

4. 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
受取手形	- 百万円	28百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む)は次のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
減価償却費	1,306百万円	1,430百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	1,131	12.0	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	1,131	12.0	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

(注)平成29年6月29日開催の定時株主総会決議による配当金の総額には、役員報酬BIP信託が所有する当社株式に対する配当金3百万円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内 土木	国内 建築	海外 建設	不動産	計				
売上高									
外部顧客への売上高	61,053	34,703	14,960	515	111,232	119	111,352	-	111,352
セグメント間の 内部売上高または 振替高	11	71	-	89	172	40	212	212	-
計	61,065	34,775	14,960	604	111,405	159	111,565	212	111,352
セグメント利益	2,401	2,019	774	230	5,426	31	5,457	-	5,457

(注)1.「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理店業及び物品の販売・リース事業等を含んでおります。

2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内 土木	国内 建築	海外 建設	不動産	計				
売上高									
外部顧客への売上高	71,498	33,429	16,382	556	121,867	297	122,165	-	122,165
セグメント間の 内部売上高または 振替高	-	46	-	27	73	2	75	75	-
計	71,498	33,476	16,382	583	121,941	299	122,240	75	122,165
セグメント利益	5,317	1,479	350	167	7,314	33	7,347	-	7,347

(注)1.「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理店業及び物品の販売・リース事業等を含んでおります。

2.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	31円86銭	48円62銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	3,001	4,570
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	3,001	4,570
普通株式の期中平均株式数(千株)	94,181	93,998

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 2. 役員報酬BIP信託が所有する当社株式を、1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。当該自己株式の期中平均株式数は前第3四半期連結累計期間189千株、当第3四半期連結累計期間372千株であり、このうち役員報酬BIP信託が所有する当社株式の期中平均株式数は前第3四半期連結累計期間147千株、当第3四半期連結累計期間330千株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年2月6日

東洋建設株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 川井克之
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 薬袋政彦
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東洋建設株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東洋建設株式会社及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていない。